

「学力向上に係る効果的事例」について

【羽生市教育委員会】

〈具体的な取組〉

1 家庭学習の習慣化

(1) 家庭学習ノートの作成

5月に「家庭学習について」を配布し、《家庭学習のてびき》を参考に、自主的に取り組めるよう指導して、クラス全員が同じ方眼ノートでスタートした。ノートには、1冊目はピンク、2冊目以降は、水色、黄色、緑、白と色別の表紙を貼り、一目で何冊目か分かるようにした。また「ノートの書き方の例」をプリントし、漢字練習や計算練習の書き方を徹底し一言日記を書かせた。

全校で家庭学習ノートに取り組んでおり、学期ごとに一番頑張った児童には「校長賞」を授与した。

(2) 家庭学習のチェックと家庭との連携

宿題プリントや音読カードは今まで通り取り組み、家庭学習ノートを含めて学習する時間の目安を〈学年＋10分〉とし、一日の学習時間と読書時間を記録していくようにした。さらに、ノートの書き方が丁寧で分かりやすく、進んで一生懸命取り組んでいる児童のノートをコピーして掲示したり、ローマ字で日記を書いてくる児童や47都道府県について調べてくる児童等、工夫したよい学習をしている児童を学習の仕方の例として紹介したりした。

ノートはその日のうちに返し、毎日取り組めるようにした。そのため、問題の答え合わせは自分でやってくること（低学年は、親にまるつけをしていただく）とし、担任は、日記へのコメントを入れ、児童とのコミュニケーションを図った。学期末PTAの学級懇談会では、必ず家庭学習への取組について詳しく話し、進んで取り組んでいる児童となかなか取り組めない児童の様子について理解していただくようにした。

2 ノート指導の徹底

(1) 算数ノートの例

算数科の研究の成果を引き継ぎ、ノート指導を徹底した。その際、記号について以下のように全職員で共通理解をした。【㊦：課題、㊧：問題、㊨：見通し、㊩：自分の考え、㊪：友だちの考え、㊫：まとめ、㊬：感想】また、課題は赤で、まとめは青で囲む、問題文やヒントカードは印刷をし、すぐに貼れるようにすること等、全学年に統一して指導した。これにより1時間の学習の流れが定着し課題やまとめが自分たちの言葉で書けるよ



うになってきた。また、自分の考えをノートに書いた後は、友だちと見せ合い、交流するようにした。

3 指導形態の工夫

(1) ICT の活用

自分の考えをノートに書き、学級全体の前で発表するとき、実物投影機を使ったりデジカメで撮って写したりできる大型テレビを活用した。発表用にもう一度書かせる時間を省き、瞬時に大型テレビに映し出されることにより、いろいろな考えにふれ、話し合いを深めることができた。

(2) 少人数指導

算数の週3回のTT指導により、より多くの児童に関わることができたこと、きめ細かな指導ができたこと、一人一人のつまづきに的確に対応することができ、できた喜び（成就感）や分かる授業を推進することができた。

4 基礎・基本の定着

(1) 学期末漢字・計算テスト

単元毎に小漢字・計算テストを実施しているが、それに加え学期毎に漢字・計算テストを実施し、どのくらい学習が定着しているのか、全校で取り組んでいる。児童はそれに向けて日々自主学習に励んでいる。

(2) キラキラタイム（国語・算数）

毎週月曜日、漢字ドリルやプリントを中心に漢詩の音読などを実施している。繰り返し学習することにより、書けなかった漢字が書けるようになったり、リズムよく漢詩が読めるようになったりしてきた。漢字の成り立ちや使い方、詩に興味・関心をもち、図書室やパソコンで調べてくる児童も見られてきた。

毎週木曜日、計算ドリルやプリントを中心に繰り返し学習することにより、速く正確に計算ができるようになってきた。また、投げ出す児童もなく、集中力も少しずつついて、最後まで取り組む児童が増えてきている。

(3) 辞書の活用

特に国語・社会等での授業中に分からない言葉が出てくると、国語辞典を利用し、その場で調べることにより、確かな理解につながっている。日々の学習で国語辞典を活用することで、語彙が増えたり理解を深めたり、学習意欲の喚起にもつながっている。付箋の数についても2,000を超える児童も出てきた。それが、努力の足跡というか、自信にもつながってきている。

(4) 読書タイム

毎週水曜日、全校で読書タイムを実施し、図書室の本はもちろんのこと、家から持ってきたり図書館の本を借りたりして、楽しみながら黙読している。11月の読書月間では、1,500ページ以上読んだ児童が23人中22名という結果で、大変頑張っていた。

(5) 新聞の社説や記事を利用した意見文

社説や記事から、自分なりの考えを理由づけてまとめることができるようになってきた。